

平成二十四年度

福岡女子大学入学式 式辞

(福岡女子大学第六三回・大学院第二〇回入学式)

この荘厳な入学式の静寂な中にも、皆さんの若い力が自然と生み出すエネルギーを、私はひしひしと感じています。「リーダーシップを持ち、国際的に活躍できる人材育成」を大学の理念とする福岡女子大学の一員になられた学部学生二五〇名、大学院学生一〇名の皆さんを、心より歓迎致します。ご入学おめでとうございます。また、公務ご多用にもかかわらず入学式にご臨席賜りました福岡県知事 小川洋(おがわひろし)様、福岡県議会文教委員会委員長 秋田章二(あきたたしろうじ)様を始め、ご

来賓の方々に福岡女子大学を代表し、厚く御礼申し上げます。

本日、皆さんが晴れの入学式に出席しておられるのも、入学試験という過酷な競争を突破された皆さん自身の努力によるのは間違いありませんが、今日まで物心両面から皆さんを暖かく支えていただいたご家族のご恩を忘れてはなりません。また、小学校から今日まで、勉強という面からだけでなく、心の成長も支えていただいた学校の先生、楽しいにつけ悲しいにつけ相談相手となってくれた友人達にも、感謝を忘れてはなりません。皆さんは若いが故に何事も自分でできると思うのは良いことですが、皆さんの現在の晴れの姿は、周りの多くの方々の経済面、精神面、あるいは教

育面からの、計り知れない程の多くの支援によるものです。

福岡女子大学は、昨年の平成二三年度より従来の教育組織を一新し、国際文理学部に国際教養学科、環境科学科、食・健康学科からなる一学部三学科の新生福岡女子大学に生まれかわりました。皆さんは、その第二回生です。国際文理学部の教育の理念や育成すべき学生像については、皆さんは様々な情報手段を通じて既に理解しておられると思います。これから始まる、授業、授業時間外教育指導、体験・フィールドワーク授業、さらにサークル活動、地域・社会貢献・国際貢献等の教育指導を通じて、福岡女子大学の建学の精神と教育理

念を、新入生の皆様に徹底して理解していただくよう指導をしていきます。

ここで皆さんが入学された福岡女子大学の歴史を説明しましょう。福岡女子大学は、1923年（大正十二年）に福岡県立女子専門学校として設立されました。今年で開学八十九年となる日本で最初の公立女子専門学校です。その後、1950年に福岡女子大学となり、学部・大学院組織を充実させながら、2006年に「県立福岡女子大学」から「公立大学法人 福岡女子大学」と変遷してきました。2011年4月より「リーダーシップを持ち、国際的に活躍できる人材育成」という教育理念に焦点を絞った大学として生まれ変わりました。

福岡女子大学の卒業生は開学以来、一万人

を越え、社会的に活躍している多くの人材を輩出してきました。皆さんは、その伝統ある福岡女子大学の一員となったことに誇りを持ち、勉学、地域・社会貢献、国際貢献に励んで下さい。

福岡女子大学は、「のんびりと4年間過ごせる大学」ではありません。皆さんが大学に来られたのは、アルバイトをし、のんびりした学生生活をするためではなく、学術的勉強、社会的勉強に集中力を持って日夜努力し、自己を研ぐためです。皆さんは若い。「鉄は熱いうちに打て」です。

さて、皆さんの福岡女子大学への入学に際して、学生あるいは社会人として、是非身に付けて欲しい「心遣い」、「創造性」、「国際性」の三つの事に関して、皆さんより多

くの経験を積んできた先輩として、いくつかの助言をさせて頂きたいと思います。

まず「心遣い」について話したいと思います。現代社会では物質主義が強くなり、人を物として取り扱うような忌しい事件が毎日の様に報道されています。人の尊厳を認め、他人に心を遣うという日本文化が、徐々に消えていっているのではないかと心配でなりません。本来室内ですべき事で、他人に見せてはいけない「化粧をする」、「食べる」、「衣服を着替える」ことなどを、車内や路上で行っている若者を多く見かけます。他人に見せてはいけないという、日本の庶民文化の中で最も重要な「恥の文化」が、無くなりつつあるのではないのでしょうか。若い人達は、自分の周りに他人が

居るという感覚を、失いつつあるのではないでしようか。幼い時からの家庭の躰として、人間的コミュニケーションの重要さと共に、自分が社会の一員であり、家の内と外ですべき事、すべきでない事があるというルールを教えられなかったのではないかと懸念しております。そのため、大人になっても社会性が育たず、常識を持った大人の基準では予測もつかない、種々の出来事が起こっているのではないでしようか。日常生活で、ちよつとした他人への心遣いで気持ちの良くなる事があります。例えば、両開きのドアを開けて通つたらすぐバターンと閉めるのではなく、自分の後に他人がいるかどうかを確かめるなど、日常生活のマナーも他人への心遣いの一つです。常に、

自分の身の回りに心遣いすべき他人がいることを忘れないで、日常生活を送って下さい。

次は、「自分の考えをもつ、即ち創造性」についてお話します。福岡女子大学の創立以来89年間の教育の伝統は、「創造性を身に付け、自分自身で行動する」ことです。皆さん、身の回りに起こり体験すること、常に好奇心を持ち、不思議に思っていますか。身の回りで起こる自然の変化、社会変化に対して、何故その様になるのかなど、常に「何故」、「何故」と考えてみて下さい。福岡女子大学で教育を受ける間に、何事につけても自分で考え、自分の意見を持ち、その意見を他人に伝達する

訓練をして下さい。自分の意見を持ち、発表することは、その人の個性、独創性さらに創造性に繋がります。創造性を生み出すためには、他と違う常に何か新しいことを見つけようとする姿勢が重要です。

最後に「国際性」について話しましょう。最近よく、International とか Global という言葉が使われますが、これは、外国語が喋れるということだけを言っているのではありません。勿論、日本語以外の言語で、皆さんが自分の考えを正確に他人に伝え、討論する術を身に付けることは重要です。言葉で相手を理解することが、国際感覚を身に付け、外国を知る最も手っ取り早い手法です。しかし、「国際性」とは、外国語を喋り、読み、書くことができるとい

う以外に、日本以外の国の人の習慣、考え方、政治・経済、芸術、宗教などを知ることです。即ち、私達以外の民族観や宗教観を持つ集団が、地球上に存在していることを知り、国際的な多様性を許容し、理解することが、真の国際性です。これからの皆さんの活躍の場所は、日本だけではありません。常に世界的視野でものを考え、行動し、国境を気にしない活動をして欲しいのです。私達が国際感覚を磨き、他の国の人達を理解していれば、20世紀に起こった多くの戦争という悲劇を、防ぐことができます。たかもしれません。幸いにも、福岡女子大学の学生になられた皆さんの身の回りは、全入学生数に対して約二〇%の留学生がいます。これから一年間は全寮制ですか

ら、多くの留学生と身近に付き合い、国際的
的
多
様
性
の
意
味
を
理
解
し
て
下
さ
い
。学
生
時
代
に
多
く
の
友
人
を
作
る
こ
と
は
、一
生
の
財
産
に
な
り
ま
す
。外
国
か
ら
の
留
学
生
と
積
極
的
に
交
流
し
、意
見
を
交
換
し
、多
く
の
国
際
的
友
人
を
作
っ
て
下
さ
い
。

皆さんがこれから福岡女子大学で受ける教育は、受け身でかつ他人から強制される勉強であってはなりません。大学教育には、新しい知識の蓄積、新事実の発見、さらに自分の考えを展開できるという期待と感動がありますが、決して易しく、楽しいばかりではありません。学問、研究は、専門的で深く追求すればする程苦しさが増してきます。

抵抗なく何事にも飛び込んで行き、失敗が許されるのは若い時しかありません。新入生の皆さんは、若者の特権をもてる若い日があつという間に過ぎることを自覚して、一日一日を有効に、学生生活が実り多く、有意義となる様心掛けて下さい。福岡女子大学の学生という誇りを持ち、何事にも自分の意見を持ち、積極的、建設的な行動の取れる社会人としても成長することを願って、式辞と致します。

「身の周りに心遣いのできる若者に」

平成二四年四月五日

福岡女子大学

理事長・学長 梶山 千里